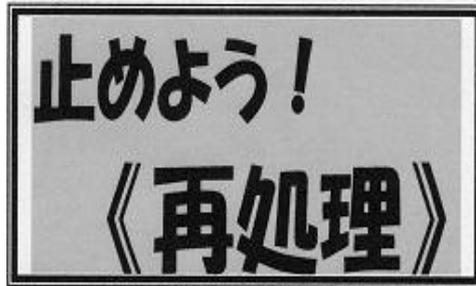


三陸の海を放射能から守る
岩手の会
ミニコミ通信 第11号
ホームページ
(岩手の環境 / RI廃棄物 / 再処理)
郵便振替 02240 - 5 - 102650



2006(平成18)年
1月23日
編集事務局 S.Oshida
電話・ファックス
019-623-1636

放射能を三陸の海に流さないことを求める要望書 1月25日に青森県知事へ要請行動 現在8800人分署名集約

岩手県議会の請願採択を受けて、各ヶ所再処理工場からの放射能を三陸の海に流さないことを求める署名は、現在八八一人分を集約しました。九月に岩手県知事に提出した五二六七人を遙かに上回っており、岩手県民の署名運動として大きな盛り上がりを見せています。

年頭の記者会見で、三村申吾青森県知事は、「北東北三県の相互理解を大事する」と語っています。岩手県民の切実な願いを集約した要望署名提出要請行動は一月二五日午後一時半から、青森県庁で行われます。

要請団には署名運動に携わった「岩手の会」と「海を守る会」のほか、趣旨に賛同する県内の環境保護運動代表など、十名前後の参加を予定しております。青森県資源工ネルギー課長が応対し、紹介の青森県議二人が司席します。



美しい冬の
越喜来(おつきらい)湾

原燃に公開討論会の要請

三陸の海を守る会

三陸の海を守る会(田村剛一代表)は、一月十七日、役員会を開催し、アクティブ試験を阻止し三陸の海を守るために、原燃(株)に公開討論会開催を要請することを決めました。県議会請願書や、山田町、田野畑村議会意見書では、「岩手県民・三陸沿岸漁業者の理解が得られるまで操業に慎重を期す、あるいは行わない」としており、事業者による岩手県民への説明を要請しています。岩手県の係官が請願採択の説明に出かけた際に原燃は、「公開討論会などの開催要請があれば検討します」と回答しています。

今のところ岩手県として公開討論会や説明会の計画はないと聞いていますので、守る会」が中心となつて、岩手県民への説明責任を果たすよう原燃に要請することとしました。「公開討論会要請書」は十九日に発送され、二五日までに開催の是非を回答するよう求めています。

開催が合意出来れば、早急に県民や協力諸団体による実行委員会を結成し二月中に開催できるように準備が進められます。

また、役員会では「三陸の海を守る学習会」を開催し、さらに、沿岸市町村長や議会への働きかけを行うことも決めました。

三陸の海を守る

学習会

一月二十七日(金)

午後 六時半

宮古市磯鶏公民館

電話0193(62)

1346

佐賀県主催パネルディスカッション

プルサーマルは計画は 是か非か

十二月二十五日

インターネットで放送中

原子力発電所玄

海三号基へのウラン・

プルトリウム混合燃

料使用(プルサーマ

ル)の是非を巡って、

一二月二五日唐津

市において、佐賀県

が主催して、公開パ

ネルディスカッション

が開催されました。

主催の県くらし環

境本部長の挨拶の後、

科学技術評論家中

村浩美氏の「コディ

ネットのもと、六人

のパネラーが推進、

反対の意見や、地震

学や安全保障上の

問題点を発表し、激

しい意見の応酬があ

りました。後半は会

場からの意見が聴取

され、沢山の疑問や

意見が出されました。

推進論の九州大

学の出光一哉氏は

「化学毒物と違って

放射能には半減期

があり、毒性は確実

に減少する。数万年

の半減期の物もある

が、それでもその特

性に合わせて管理す

ることが出来る」等

と語り、東大の大橋

忠宏氏は「プルトリウ

ムは水に溶けないの

で極端に言えば飲ん

でも排泄される。肺

を手術して埋め込み

でもしない限り害は

ない」等と所論を語

り推進論を展開し

ました。

京都大学の小出

裕章氏は「今日日本が

保有しているプルトリ

ウムは四三トにも及

ぶ。これは長崎型原

爆二千発分に当た

る。プルトリウムを取

り出したことが問題

である。何らかの形

で微粒子となつて鼻

から肺に吸収された

プルトリウムは微量

でもガンを起こす」

などと述べ、高浜原

発反対美浜の会の小

山英之氏は「放射性

廃棄物の安全管理

は確立されていない

プルトリウムを取り

出すことによつて放

射性廃棄物はさら

に蓄積し、結局青森

県に集められ、岩手

県の三陸海岸の汚染

の原因となる」など

の所論を述べ、原子

力政策を批判しま

した。

会場からは二十余

人が発言しました。

「尚論が聴けて理解

が深まった。まだま

だ議論を深める必

要がある。性急な結

論は出さないでほし

い」という声が目立

ちました。

三時間におよぶ討

論の様子は、「佐賀

再処理問題 小辞典

《再処理工場からの放射性毒物》 その3

プルトリウム

プルトリウムは核分裂を起こしやすいので原爆の材料にもなる。海水に放出されるとワカメ、昆布などは270~3500倍に濃縮する。潮風などの空気中のプルトリウムの微粒子を吸い込むと、肺に被ばくを与える。さらにその一部が血液に取り込まれ、主として骨と肝臓に集まり、白血病や肝臓ガンの原因となる。プルトリウムは体から排出されにくくほぼ一生これらの臓器に留まる。アルファ線は飛距離は1ミリもないが、エネルギーを出し続け、細胞の遺伝子などを傷つけてゆく。食べ物で体内に取り入れた場合には大部分は排出されるが、ごく一部は腸から吸収されやはり骨や肝臓に集まりガンなどを引き起こす。1gの何千万分の1の微量でも実験動物を肺ガンにさせることが明らかになっている。(N)

北上・平和ネット学習会



県原子力安全行政「ホームページ」で動画録音による放送が行われており、詳細が分かります。(尚、まとめ)

岩手民教研集会 で学習会

田老町で開催された民間教育研究団体集合理科部会主催の再処理問題学習会は一月十四日夜開催され、大学、高校、中学校の理科教員二五人が集まりました。放射能汚染についての認識が深まり、大学の学術会議でも早急に話し合うことなどが話し合われました。

やさしい学習パンフ
『六ヶ所核燃料再処理工場O&A』完成

岩手の会では、誰もがわかる学習資料として「再処理O&A」を作製しました。A4版十頁です。科学的な内容を平易に述べています。

学習会でご利用の場合左記お申し込みください。

パンフは無料ですが、送料分などカンパをお願いします。

事務局 永田

019(261)1002

北上平和ネットの再処理問題学習会は一月十二日、十一人が集まって開催されました。「確かに最近乳ガンが増えている」などの話題や、消費者運動の立場からも無関心ではいられない、北上市民としても運動を行おう」などの意見がだされ具体化することが話し合われました。